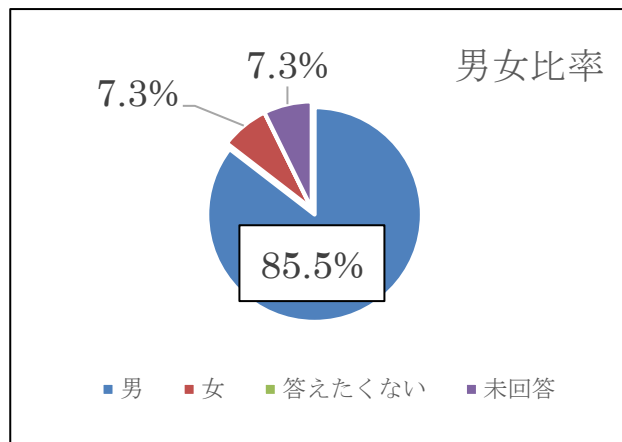


令和3年度 自主防災組織リーダー育成研修受講者アンケート結果

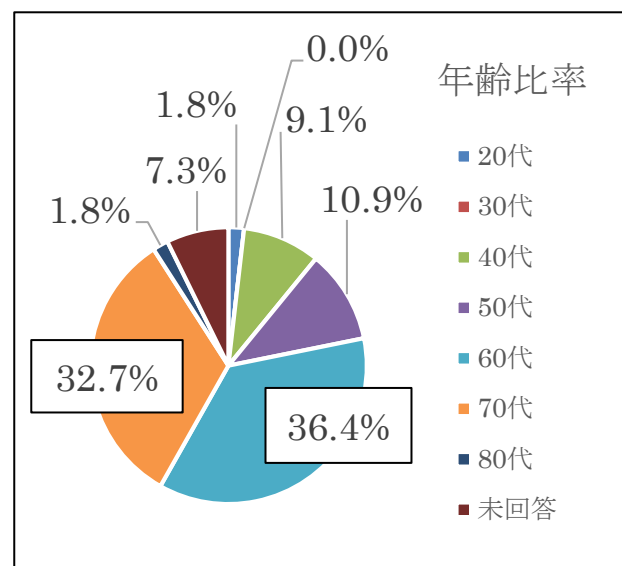
1. 性別

性別	合計	男女比率
男	47	85.5%
女	4	7.3%
答えたくない	0	0.0%
未回答	4	7.3%
合計	55	



2. 年齢

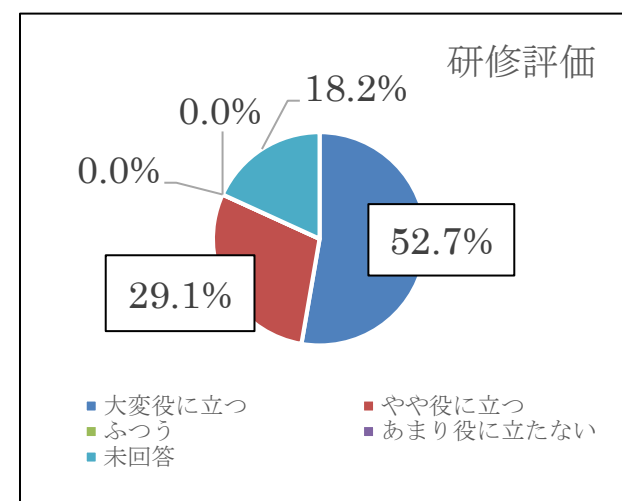
年齢	合計	年齢比率
20代	1	1.8%
30代	0	0.0%
40代	5	9.1%
50代	6	10.9%
60代	20	36.4%
70代	18	32.7%
80代	1	1.8%
未回答	4	7.3%
合計	55	



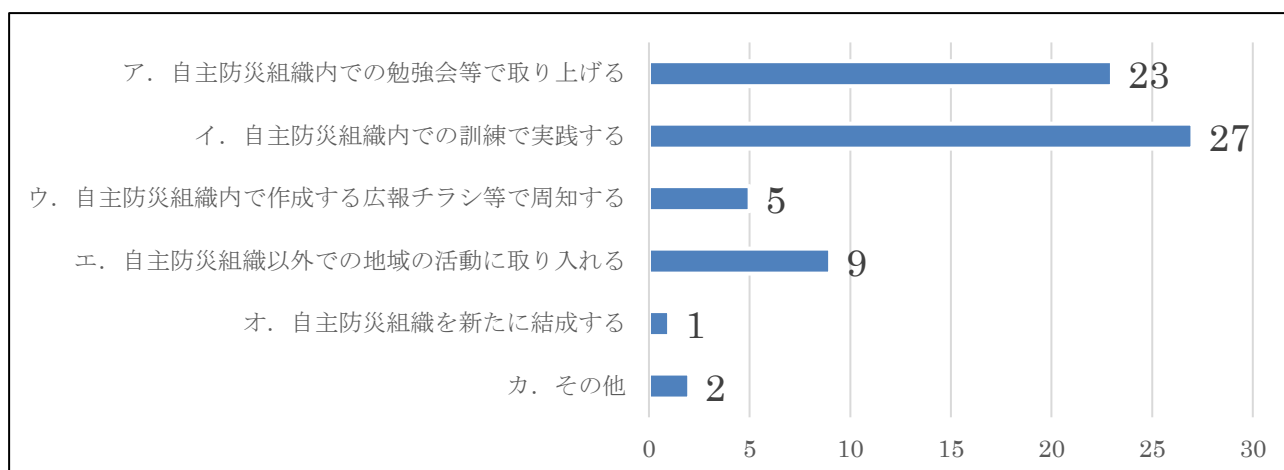
3. 研修内容

(1) 今後の活動に役立つと思うか

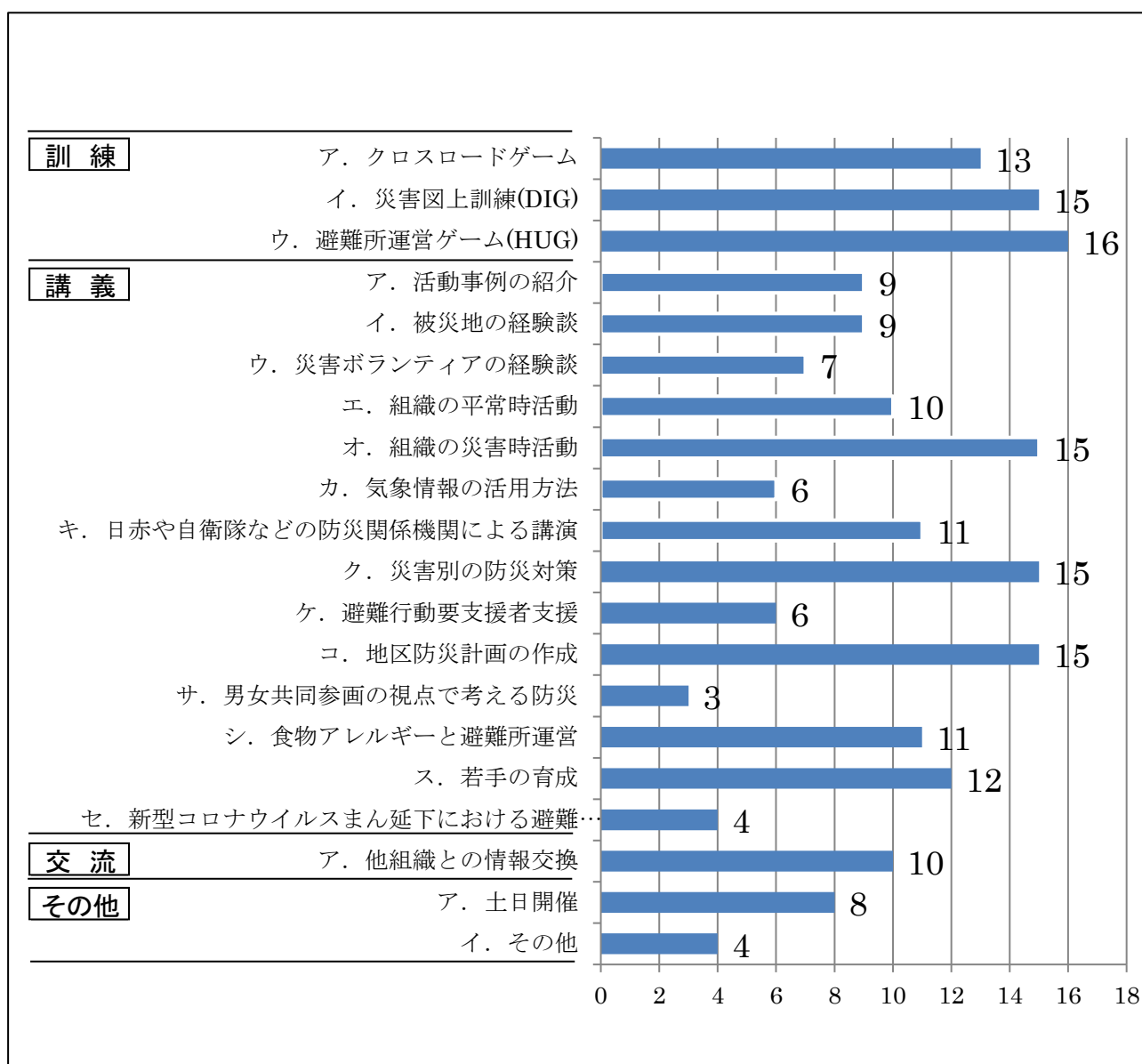
研修内容全体	合計	比率
大変役に立つ	29	52.7%
やや役に立つ	16	29.1%
ふつう	0	0.0%
あまり役に立たない	0	0.0%
未回答	10	18.2%
合計	55	



(2) 学んだ内容をどのように活かすか (複数回答、回答者数 43 人)

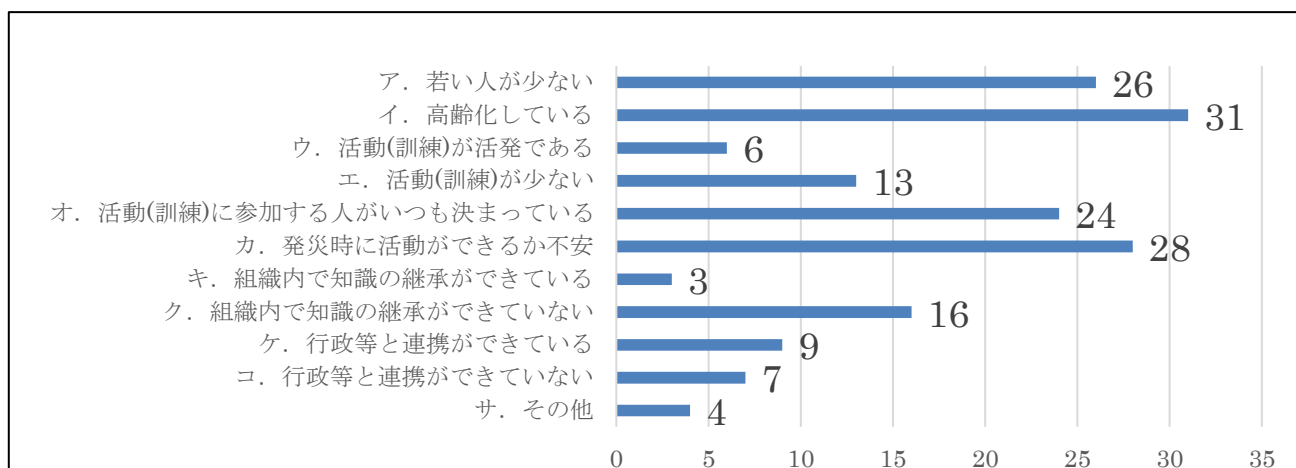


(3) 今後希望する内容 (複数回答、回答者数 45 人)

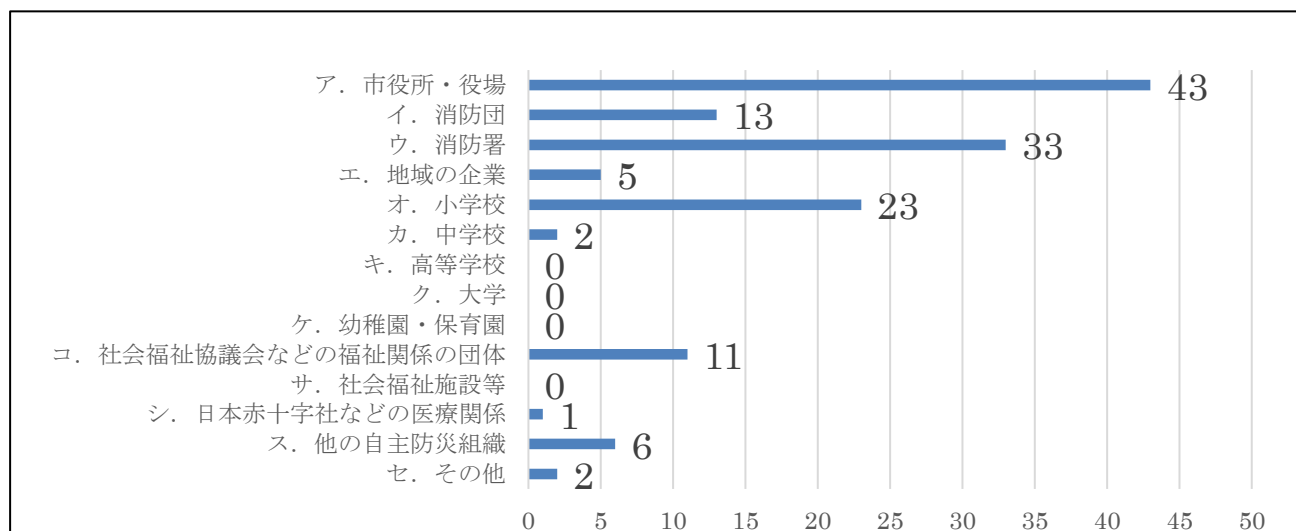


4. 自主防災組織について

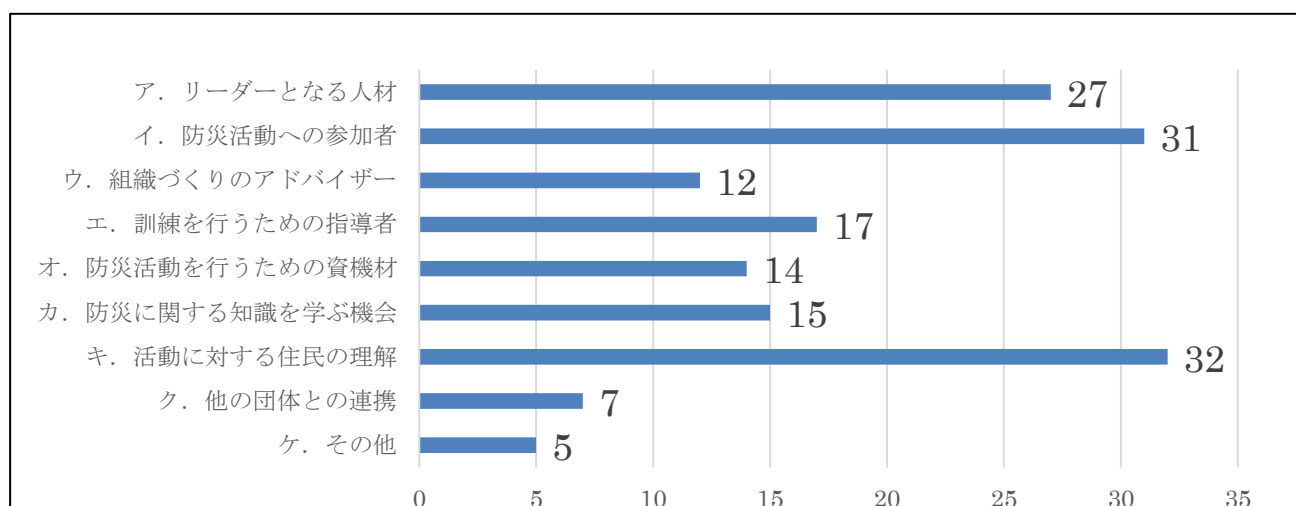
(1) 所属する組織について日頃感じること（複数回答、回答者数 47 人）



(2) 防災活動での他機関との連携状況（複数回答、回答者数 49 人）



(3) 組織を活性化していくうえで必要と思うもの（複数回答、回答者数 48 人）



5. その他自由記載（主な意見）

（1）研修について良かった点や改善点

<研修時間等に関して>

- ・研修を半分ずつで2回に分けて実施してほしい。
- ・聴講が長いめんどかった。
- ・360分は長い。
- ・研修時間・各1時間でなく内容によっては80分や40分であってもいいのでは。

<講義に関して>

- ・アレルギー、為になりました。
- ・意外と認識していない部分に気付かされた。
- ・新型コロナウイルスまん延下における避難所運営において、ゾーニングや人数に関しては現実的ではない。スペースが不足しているのがこの地域でも同じ。参考にならなかった。
- ・参加者はもちろんですが、講師の方々の熱気が伝わり有意義でした。
- ・要配慮者、要支援者への支援は、通常気が付かないので研修では必ずと言って良いくらい入れて頂きたい項目です。
- ・今まで気付かなかった事等が知れた。
- ・防災気象情報のお話が良くわかり、今後に活かされたいと思っています。
- ・まずは命が助かることが大切であると思いました。
- ・アレルギーっ子ママが考えた防災ハンドブックありがとうございました。
- ・日本赤十字社の方の話が、話すことばがはっきりしていて、声も大きく分かりやすかった。特に高齢者に対する接し方など内容もよかった。
- ・「防災ジュニアチーム（中学生）」を、防災訓練に参加してもらうアイデアは参考になった。
- ・車椅子補助介助棒やストレッチャーなど参考になった。
- ・キキクルが役に立った。
- ・災害時のアレルギーについては、あまり意識していなかった。
- ・テーマ、範囲をしぼった方が有益。
- ・避難所での食物アレルギー対策、全く気づかず新しい視点でした。今後の防災活動に生かします。
- ・事例、実例を取り上げた講義。
- ・今後発生が危惧される各災害対応時に自助、共助を実施していくうえで大変有効に感じました。
- ・すべて必要な情報だと思いました。
- ・日本赤十字社と気象台の講義が初めてで大変よかった。
- ・家族にも食物アレルギーの子供がおり役に立てたい。

<その他>

- ・スタッフも丁寧に対応していただいた。
- ・自分が出来ることを一つでも多く増やしていく。
- ・行政との連携が必要。
- ・災害時は、すべての人を救済すると考えることは重要だが、まず一人でも多くの人を考えるほうが無力感が出ない。

- ・新型コロナウイルス拡大により避難所運営により注意が必要。
- ・災害が起きてからではなく、今何ができるかをもちと伝えるべきだと感じました。
- ・地域以外にも市外に住んでいる娘たちにも教えて今後の参考にしてもらいたい。
- ・講習会で何を話したら良いか整理が出来た。また、防災士の資格を取得してから長く間が空いているのでもう一度考える機会が得れた。

（２）組織のリーダーや若手の人材をふやすためにどのような取り組みが必要か

- ・中学生、高校生への訓練参加の呼びかけ。
- ・参加を呼びかけるしかない。
- ・継続的な訓練や勉強会及び地域機関との連携。
- ・名前だけの人には退いてもらい、若手人材の登用を進めている。
- ・中学生や高校生の頃より防災訓練を運営してもらうことで大人になった際に協力してもらえらるような環境を作る。
- ・地域活動を通じた日常からのコミュニケーション。
- ・地域の他の諸団体（青少年指導員、青少年福祉委員等）の若手と連携。
- ・防災士の養成。
- ・発災時、初動訓練のくり返し。
- ・興味を引くような取組み、何かのイベントとの統合。
- ・青少年指導員、小中学校のPTAとの連携。
- ・18歳以下の若い人から募集する。
- ・個人主義の方が多いので、町会などの組織に参加してもらう事が大切だと思う。
- ・コミュニティ作り、町会では若い人は増やせないし育たない。
- ・呼びかけをしていくことと、短時間の研修を実施する。
- ・実施可能な活動計画、継続できる活動計画、若手現役世代でも参加できること。そのために、最もシンプル化した、だれにでもできる防災計画。
- ・法令により防災組織の加入を促進する。
- ・自治会未加入の人にも積極的に呼びかける。
- ・防災の研修、学習の機会を積極的に開催し関心を高めていく。
- ・自治会の活性化、広報活動。
- ・災害時はもとより、全ての地域活動について、他人事ではなく自分事である旨の広報及び訓練が必要。
- ・住民の1人1人の認識が必要。
- ・参加したくなるような防災訓練・機材での使用実技など。
- ・役割にとらわれず、現社会状況に合わせた組織作り（仕組み）、自治会・地元の仕組みの再構築。

（３）日々の活動の中で悩んでいること

- ・訓練時に地域住民の参加が少ない。
- ・意見が合わない。災害時、自分を客と思う人が多い。
- ・毎時、単発的な訓練等に終始しているように思われ、一貫した動きが望まれる。
- ・コロナ禍での活動制限。
- ・訓練の回数が少ない。用具を買うための予算が欲しい。良い人材の集めるためには日当などの予算が必要。水防団は予算があるのに、地域防災リーダーには見当たらない。なんでもボランティアは無理がある。

- ・体力的に厳しい。
- ・行動力のある若手を中心に組織作りすると、会社勤務者が多く活動が平日に出来ないデメリットがある。
- ・若手不足、高齢者の増加。
- ・町会加入世帯と非加入世帯との協働のあり方。（避難所運営、訓練参加要請など）
- ・自分自身で行動していただけるリーダーが少ない。
- ・男性の参加が日曜日に限られる人が多い。
- ・参加者が少ない。
- ・コロナ禍になり、人とのつながりが希薄になり、防災意識も低下してきている。防災訓練を町全体が参加できる行事にしたい。
- ・高齢者世代と現役、若者世代のコミュニケーションが難しい。元気な年寄りが頑張りすぎてついていけない面がある。
- ・災害を自分の事として受け止めるための意識改革をいかに地区の人に植えつけるか。（防災は、行政等がやってくれるという依存だけでなく、自分の身は自分で守る自助。）
- ・自治会未加入の人が多い。
- ・個人個人の危機意識の高揚、自助意識の高揚。
- ・協力者を作ること。
- ・地域内の交流促進を目指しているが参加理解されていない。
- ・災害は他人事ではなく、自分事であることを伝えるのがむずかしいと感じている。
- ・コロナ禍で活動したいがなかなか一歩がふみ出せない。できそうにない。
- ・子供会・PTA・消防団・福祉（本業）事業所・福祉サービス業組合・色々な取組みに参加させて頂き、それぞれに「新しい組織作り」を必要としています。案はあるが時間が無い状況なので、仲間を作る活動に力を入れていきたいと思います。